

授業科目名	必修・選別別	単位数	対象学年	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
社会医学	必修	講義 法医学 と合わせて 7単位	3	3	月～金	日本語	英語	オムニバス

【担当教員】 山岡吉生（環境・予防医学） 齊藤 功（公衆衛生・疫学）

【科目名の英文】

Social Medicine

【授業の概要・到達目標】

- ・地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。
- ・国際社会における医療の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。
- ・臨床現場での意思決定において、入手可能な最善の医学知見を用い、適切な意思決定を行うための方法を身に付ける。
- ・保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。
- ・生活習慣（食生活を含む）とそのリスクについて学ぶ。
- ・社会と健康・疾病との関係を理解し、個体及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。
- ・地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。
- ・限られた医療資源の有効活用の視点を踏まえ、保健・医療・福祉・介護の制度の内容を学ぶ。
- ・国際保健の重要性について学ぶ。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. わが国の社会における医療システムを理解し、それを説明できる	○				○	
2. 根拠に基づく医療を実践するための疫学の考え方を説明できる	○		○			○
3. 患者の社会的背景が健康に及ぼす機序を説明できる		○		○	○	
4. 公衆衛生学の基礎を理解し、健康と疾病の概念を理解できる。	○	○	○	○	○	○
5. 食品保健、学校保健、環境保健、産業保健、母子保健など我が国の保健政策を理解できる。	○		○	○	○	○
6. 感染症対策、予防医学、国際保健に関する国際的な動向を理解し、我が国における概要を説明することができる。	○	○	○	○	○	○
7. 医療体制および社会保障における我が国の政策を理解できる。	○		○	○	○	
8. 生命科学技術の発展が医療に与える影響について、利点・問題点を挙げるができる。	○		○	○		○
各DPへの関連度（計10）	5	1	1	1	1	1

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	公衆衛生学総論	公衆衛生学の総論について学ぶ	公衆衛生・疫学（齊藤）	講義
2	疫学（1）	疫学の考え方・疫学の指標	公衆衛生・疫学（齊藤）	講義
3	疫学（2）	曝露効果の指標	公衆衛生・疫学（齊藤）	講義
4	疫学（3）	疫学調査方法・介入研究	公衆衛生・疫学（齊藤）	講義
5	疫学（4）	スクリーニング・臨床疫学	公衆衛生・疫学（齊藤）	講義
6	児童福祉（1）	児童福祉を中心に福祉について学ぶ	公衆衛生・疫学（小野）	講義
7	児童福祉（2）	児童福祉の実践について学ぶ	公衆衛生・疫学（小野）	講義
8	地域保健	保健所医師から地域保健について学ぶ	公衆衛生・疫学（藤内）	講義
9	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて学ぶ	公衆衛生・疫学（藤内）	講義
10	産業保健（1）	産業保健について学ぶ	公衆衛生・疫学（齊藤）	講義
11	産業保健（2）	労働衛生の最近の話題（労安法の改正）	公衆衛生・疫学（齊藤）	講義
12	健康システム論	システム・ダイナミクスについて学ぶ	公衆衛生・疫学（西）	講義
13	健康システム論演習	システム・ダイナミクスモデルの構築	公衆衛生・疫学（西）	演習

14	母子保健	母子保健について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
15	精神保健 (1)	精神保健について学ぶ	公衆衛生疫学 (土山)	講義
16	精神保健 (2)	精神保健の課題と取り組みについて学ぶ	公衆衛生疫学 (土山)	講義
17	学校保健	学校保健全般について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
18	医療政策	医療政策について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
19	小児保健	出生から成人期までの保健について学ぶ	公衆衛生・疫学 (平野)	講義
20	成人保健 (1)	循環器疾患の疫学について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
21	成人保健 (2)	メタボリックシンドローム対策について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
22	保健所における危機管理 対策 (1)	災害医療について、大分県内の保健所所長からその 実態を学ぶ	公衆衛生・疫学 (池邊)	講義
23	保健所における危機管理 対策 (2)	災害に対する保健所の役割について学ぶ	公衆衛生・疫学 (池邊)	講義
24	栄養疫学 (1)	栄養疫学について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
25	栄養疫学 (2)	栄養疫学の実践について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
26	社会疫学	健康の社会的決定要因について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
27	社会と医療 (1)	貧困と疾病との関係について学ぶ	公衆衛生・疫学 (海老)	講義
28	社会と医療 (2)	貧困について実例から学ぶ	公衆衛生・疫学 (海老)	講義
29	衛生学総論 I	衛生学の総論を学ぶ	環境・予防医学 (山岡)	講義
30	衛生学総論 II	衛生学の総論を、ピロリ菌感染を例にして学ぶ I	環境・予防医学 (山岡)	講義
31	衛生学総論 III	衛生学の総論を、ピロリ菌感染を例にして学ぶ 2	環境・予防医学 (山岡)	講義
32	衛生学総論 IV	世界の衛生学の現状についての総論を学ぶ	環境・予防医学 (山岡)	講義
33	衛生学総論 V	世界の衛生学の動向についてアジアを中心として学 ぶ。本講義では英語での講義を併用する	環境・予防医学 (山岡)	講義
34	衛生学総論 VI	世界の衛生学の動向についてアフリカを中心として 学ぶ。本講義では英語での講義を併用する	環境・予防医学 (山岡)	講義
35	健康の概念	健康の概念を学ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
36	人口統計	人口と平均寿命と疾患の歴史	環境・予防医学 (城戸)	講義
37	予防医学 I	ライフコースにわたるリスクと疾患を理解する	環境・予防医学 (城戸)	講義
38	予防医学 II	Neglected Tropical Diseases と UHC について	環境・予防医学 (城戸)	講義
39	社会保障制度	社会保障制度について概略を学ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
40	グローバルヘルス 1	グローバルヘルス、プラネタリーヘルスの概念を学 ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
41	生命情報科学 I	ゲノム解読技術について学ぶ	環境・予防医学 (鈴木)	講義
42	生命情報科学 II	ゲノム情報と精密医療の概論について学ぶ	環境・予防医学 (鈴木)	講義
43	生命情報科学 III	生命科学における情報科学の応用、人工知能の概略 を学ぶ	環境・予防医学 (鈴木)	講義
44	行政における公衆衛生 I	公衆衛生行政の概略、集団検診	環境・予防医学 (吉川)	講義
45	行政における公衆衛生 II	環境放射能	環境・予防医学 (吉川)	講義
46	生活環境の保全	公害および環境基準を学ぶ	環境・予防医学 (吉川)	講義
47	食品栄養・栄養 I	食事摂取基準を基に栄養学の基礎を学ぶ	環境・予防医学 (松尾)	講義
48	食品栄養・栄養 II	食品衛生などの環境因子について学ぶ	環境・予防医学 (松尾)	講義
49	薬剤耐性 I	薬剤感受性試験について学ぶ	環境・予防医学 (松尾)	講義
50	薬剤耐性 II	薬剤耐性菌の疫学	環境・予防医学 (松尾)	講義
51	薬剤耐性 III	薬剤耐性機構について学ぶ	環境・予防医学 (松尾)	講義
52	障害者福祉	障害者福祉の枠組みについて	環境・予防医学 (松尾)	講義
53	低・中所得国における社 会実装研究	低・中所得国を題材に社会実装研究にふれる	環境・予防医学 (松本)	講義
54	グローバルヘルス 2	国際協力と感染症をとりまく課題	環境・予防医学 (松本)	講義
55	環境生命科学 I	腸内細菌叢について	環境・予防医学 (松本)	講義
56	環境生命科学 II	社会と健康について	環境・予防医学 (松本)	講義

57	感染症法・学校保健	感染症法・学校保健安全法の概要を学ぶ	環境・予防医学 (松本)	講義
58	薬害・予防接種	薬害事象、予防接種を理解する	環境・予防医学 (松本)	講義
【アクティブラーニングの内容】 レポート課題に関しては、発表の機会を設け、その際に、学生たちが発表についての、評価、議論を行うようにします。できるだけ、授業は受け身ではなく、質疑応答を重視し、さらに実習では、自分でテーマを考える形式とします。		【その他の工夫】 グローバル化の中で、英語で考えることは重要であり、特に環境・予防医学の講義では、英語を取り入れた授業を行います。		
【時間外学修の内容と時間の目安】				
準備学修	次回の学習内容について、参考書等を用いて概要を把握する (60h)			
事後学修	講義の整理を行う (60h)。レポート課題 (30h)			
想定時間合計	150h			
【教科書】 特になし				
【参考書】 1 回目の授業の時に説明します				
【成績評価方法及び評価の割合】 受講状況・レポート課題：30%、期末試験：70%を基準に総合して評価する。 成績評価（試験）は公衆衛生・疫学講座、環境・予防医学講座、それぞれの講座で行います。 欠席が40%を超える場合、期末試験の受験資格を与えません。詳細は1 回目の授業の時に話します。 小テスト：平均60点以上が必須。課題プリント：2枚以上の提出が不可欠。				
【注意事項】				
【備考】				
リンク				
	URL			
教員の実務経験の有無	○			
教員の実務経験	医師、産業医、社会医学系専門医・指導医、日本公衆衛生学会認定専門家、大分県地域医療構想アドバイザー、大分県環境審議会委員、大分県公害審査会委員			
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○			
教員以外の指導に関わる実務経験者	医師、ケースワーカー、管理栄養士、環境行政職、臨床検査技師			
実務経験をいかした教育内容	教員は、実務経験を生かして公衆衛生に関する研究や保健指導等の活動を行っている。そこで、教員からは、公衆衛生を学ぶ上で必要な疫学や保健について教授し、知識・技術の習得を図る。教員以外の指導にかかわる実務経験者は、それぞれ公衆衛生活動の諸分野において、第一線で活躍している講師であり、これらの公衆衛生活動の実践例を教授する。			
授業形態	対面授業			